



平成 31 年 2 月 13 日

各 位

会 社 名 岡藤ホールディングス株式会社
代 表 者 名 取締役社長 小 崎 隆 司
(コード番号：8705)
問 合 せ 先
役 職 ・ 氏 名 取 締 役 増 田 潤 治
電 話 03-5543-8705

平成 31 年 3 月期第 3 四半期の連結業績見通しに関するお知らせ

平成 31 年 3 月期第 3 四半期累計期間（平成 30 年 4 月 1 日～平成 30 年 12 月 31 日）の連結業績につきましては現在集計中ではありますが、決算の概要がまとまりましたので、業績見込みをお知らせいたしますとともに、前年同期実績と比較して差異が生じる見込みとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 平成 31 年 3 月期第 3 四半期累計期間の連結業績見込みおよび業績との差異

(単位：百万円)

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益
前年同期実績 (平成 30 年 3 月期第 3 四半期累計期間) (A)	2,106	△96	△61	△63
当期実績見込み (平成 31 年 3 月期第 3 四半期累計期間) (B)	1,951	△52	△36	△35
増 減 額 (B - A)	△155	44	25	28
増 減 率 (%)	△7.3	—	—	—
(ご参考) 平成 30 年 3 月期実績	2,737	△189	△153	△176

2. 差異が生じた理由

当第 3 四半期連結累計期間におけるわが国経済は、豪雨、台風、地震などの大規模な自然災害が続いたことが一時的に景況感の悪化に繋がったものの、雇用・所得環境の改善傾向が継続していることを背景に個人消費は持ち直しました。また、堅調な企業収益を受けて、設備投資は増加基調が続いております。

商品市況は、金は 6 月中旬までは方向感が無くレンジ内での推移となりましたが、6 月中旬以降はドル高を背景に下落し 8 月中旬に安値を付けた後、米国の株価が不安定な値動きを続ける中、安全資産としてのニーズが高まり、年末にかけて上昇傾向が続きました。原油は中東での地政学的リスクの高まりや米国による対イラン制裁再開により供給不足になるとの懸念から 10 月にかけて上昇した後、米中の貿易戦争によるエネルギー需要減退懸念や米国株の下落を背景に年末にかけて大きく下落しました。これらの背景から、全国市場売買高は 33,188 千枚（前年同期比 90.1%）となりました。

このような状況のなか、当社グループの中核事業である商品取引関連事業における受取手数料につきましては、1,056 百万円（前年同期比 88.6%）となりました。また、売買損益につきましては、ゴム市場におけるディーリングで利益をあげ、195 百万円の利益（前年同期比 126.2%）を計上しておりますが、有価証券関連事業における売買損益が、192 百万円の利益（前年同期比 31.4%）にとどまったこともあり、営業収益は 1,951 百万円（前年同期比 92.7%）となる見込みであります。

また、営業費用につきましては、2,004 百万円（前年同期比 91.0%）となる見込みであります。これらにより、営業損失は 52 百万円となり、経常損失は 36 百万円となる見込みであります。これに加えて投資有価証券評価損 25 百万円を特別損失に計上したことなどから、親会社株主に帰属する当期純損失は 35 百万円となる見込みであります。

以 上